

インドルピーの特異性と BRIC 諸国

現在各国首脳ของ多くは困難に直面しているが、インドのモディ首相の困難も相当なものだ。想定を超えたトランプ関税 50% を食らい、対応策の整理もできないまま日本に飛び石破首相と新幹線に乗ったと思ったら、中国で習近平やプーチンと一緒に思いっきり作り笑いをして見せた。対米関係が関税でこじれたとはいえ、中国主導の上海協力機構 (SCO) に違和感が消えるわけがない。インドに課せられたロシアからの原油輸入による罰則的関税も中国には課せられていないことにもわだかまりがあるだろう。

さて通貨についてだが、インドルピーは先週、対ドルで史上最安値を付けた。ドルルピーは 1 ドル 88.0 ルピーを突破し、88.3 を超えた。その後は若干戻し直近では 88.09 水準だ。これはトランプ関税の発動による。

アジアの主だった通貨は台湾ドルをはじめ今年対ドルで最高値を付けた通貨は複数あったが、最安値を付けた通貨はルピーくらいだ。BRIC 諸国の通貨を見ても、年初来の対ドルレートはルピーを除いてすべて上昇している。ブラジルレアル 11.6%、ロシアルーブル 29%、人民元 2.1%、ルピーだけがマイナス 3% 弱と値を下げている。

しかしインドの経済成長率が高い。ルピーが史上最安値に急落した後に今年 4 月から 6 月期の GDP が発表された。前年比 7.8% で予想より高い数字だった。BRIC 諸国のどこより高い成長率だ。1 月から 3 月期は 7.4% だった。経済成長率が高い割に通貨のレベルは低い。

今年ルピーのパフォーマンスが冴えなかった要因の一つは、時々大量の資本流出が発生したことだ。モディ首相と近い財閥系の有力者のスキャンダルなどで海外投資家の信頼を失った。

トランプの懲罰的関税の根拠となったロシアからの原油輸入にしても、インドはロシア原油を大幅なディスカウントで購入して、自国で精製してそれを国内外で販売して大きな利益を上げた。この取引にもモディ首相に近い有力財閥グループが絡み、利益の半分を手にしたとされる。

一方で50%の懲罰的関税は労働集約的な中小の輸出業者に大きく影響する。年間の対米輸出額およそ850億ドルの半分以上が打撃を受けるとされる。

モディ首相はこうした中小輸出業者の不利益と原油輸入による莫大な利益のバランスを政治的にとる必要がある。

一般的にルピーはインド中央銀行(BOI)の為替介入で通貨の安定が図られる。今回の88.0突破の局面でもBOIの介入があった。だがそれほど強力ではなかった。この点から見るとBOIは関税の影響を相殺するため穏やかなルピー安を許容する可能性がある。ただ露骨に通貨安を志向するとまた関税を上乗せされる懸念もあるので慎重に進めるだろう。

もちろん米国との貿易交渉が再開し50%の安全が撤回されれば話は別だ。